

2月21日 本日の為替見通し

ポイント

注目のユーロ圏財務相会合の結果は、まだこの時間に入っていないが、WSJ紙は「第2次ギリシャ支援協議は停滞、民間部門の負担増の要求で」との見出しが流れている。長い間これをテーマにした相場変動や、要人の発言で相場が動いていたが、これでようやく決着がつくことを期待したい。

EURUSD の一に当たりの値幅は、11月＝約172ポイント、12月＝約118ポイント、1月＝約137ポイント、2月＝昨日までで約128ポイントとで、12月のクリスマス時期を考慮すれば、11月から相場変動は徐々に落ち着いてきおり、仮に本日、ギリシャ第2次支援が予想通りの結果となれば、さらに値幅が狭くなることも予想される。

仮に、ギリシャ第2次支援が無事終了したら、次のテーマは2月29日のLTRO(3年物長期リファイナンスオペ)になるのではないだろうか？ 昨年12月20日に実施した際には、一時的にユーロ安に動き、金融市場の安定にユーロ高へ動き始めたのは記憶に新しい。次のLTROは2度目となり、これで最後になると言われている。

LTROは量的緩和に当たり、長期的にはEUR安相場になることも指摘されているが、はたして、本当にこの先もユーロ安が続くのだろうか？ 第1次のLTROより規模が拡大するとの予想が多い。

最近では円安傾向が続いている。市場では、USDJPYの上昇は短期間で終了し、3月は季節的な要因(リパトリなど)で円高になる傾向が高い事を理由の一つにして、円高傾向の予測も多いが、オプション市場では10年ぶりに1年物の長いところで、円売り(円プット)に傾いているとのことで、変調の兆しとも考えられないこともない……。

特に、最近ではクロスでの円安傾向が目立ち、NZDJPYが先んじて高値を超え始め、次にAUDJPY、そしてCADJPYへと移行している。テクニカルでは最近の急上昇に買われ過ぎ感も出ているが、円買いの材料を探すのは現状では難しいと言われている。日足、週足、そして、現段階では月足でも相場の転換が示されている。

今日の日経新聞で、懐かしい格言が掲載されていた。

ジョン・テンプレトンの名言で、「強気の相場は悲観の中で生まれ、会議の中で育ち、楽観とともに成熟し、陶酔のなかでできてゆく」。なかなか味わい深い格言に思われてならない。

本日の重要な経済指標 発言・その他

◎発言・その他

09:30 豪中銀(RBA)議事録(2月7日分)
11:30 スティーブンス豪中銀総裁(講演)
16:00 EU財務相理事会
20:00 EFSF短期証券入札
21:00 トルコ中銀 金融政策発表
04:30 ビーン BOE副総裁 講演

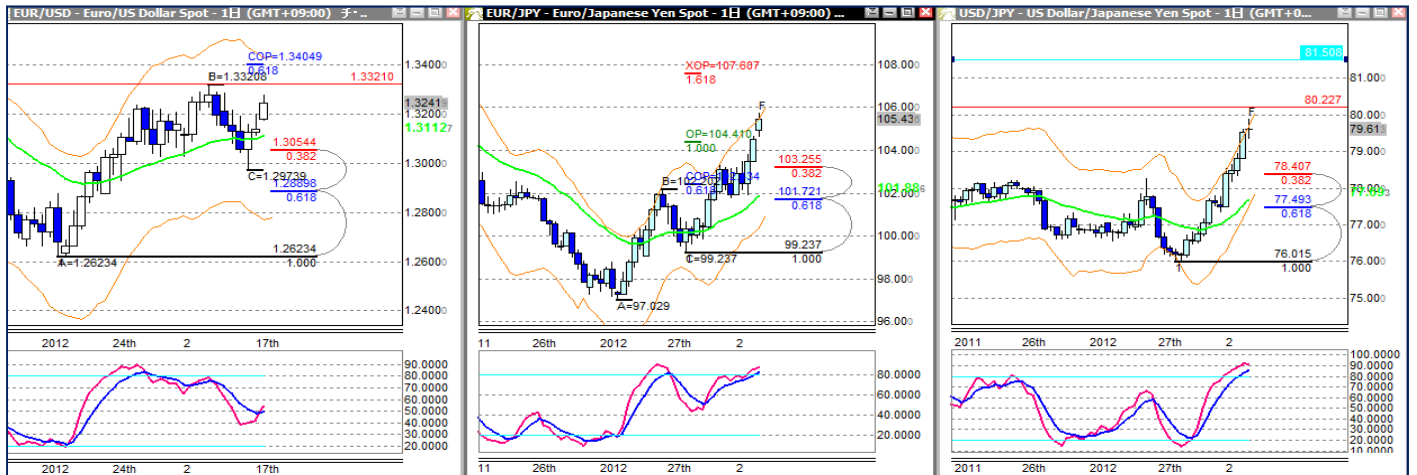
◎注目の経済指標

11:00 NZ中銀(RBNZ)インフレ期待(2年間)
22:30 カナダ小売売上高

本日の主な経済指標と発表予定

9:30	AUD 豪中銀(RBA)2月の金融政策委員会の議事録公表
11:00	NZD 第1四半期 NZ中銀(RBNZ)インフレ期待(2年間)＝前期比予想 前回2.8%
13:00	JPY 12月 全産業活動指数＝前月比予想1.5% 前回-1.1%
16:00	CHF 1月 貿易収支＝予想25億スイス 前回20.7億スイス
18:30	GBP 1月 公共部門純買入所要額(PSNCR)＝予想-247億ポンド 前回229億ポンド、公的部門純買入額(除く金融介入)＝予想-63億ポンド 前回137億ポンド、公共部門ネット負債＝予想-91億ポンド 前回108億ポンド
22:30	CAD 12月 小売売上高＝前月比予想-0.2% 前回0.3%、除く自動車前月比予想0.2% 前回0.3%、
22:30	CAD 12月 卸売売上高＝前月比予想0.5% 前回-0.4%
22:30	USD 1月 シカゴ連銀全米活動指数＝予想0.22 前回0.17
0:00	EUR 2月 ユーロ圏消費者信頼感＝予想-20.1 前回-20.7

EURUSD・EURJPY・USDJPY のマーケット・レベル



EURUSD(日足)=25 日指数移動平均線は 1.3113 で、買いの流れが続いている。DOPup=1.3425、DOPdn=1.2769。スロー・ストキャスティックは%K=54.02、%D=50.03、買いに変化し、ベースはニュートラル。上値のポイントは 1.3321、1.3405、下値のポイントは 1.3113、1.3054。予想レンジは 1.3120~1.3400。

EURJPY(日足)=25 日指数移行平均線は 101.89 で、この線を下限に上昇を続けている。DOPup=105.45、DOPdn=100.40。スロー・ストキャスティックは%K=87.82、%D=82.41、買いを継続し、トレンドのある上昇への動きが強まっている。ベースは買われ過ぎゾーン。上値のポイントは、105.45、107.61、111.56。下値のポイントは 104.41、103.26。予想レンジは 104.40~107.60。

USDJPY(日足)=25 日指数移動平均線は 77.69 で、この線を下限に上昇を続けている。DOPup=79.69、DOPdn=77.50。スロー・ストキャスティックは%K=91.37、%D=86.10 で、買い継続しているが、トレンドのある上昇なのか、売り変化するのか注視、ベースは買われ過ぎゾーン。上値のポイントは 79.69、80.23、81.50。下値のポイントは 78.41、77.49。予想レンジは 78.50~80.20→81.50。

本日のCFD見通し Spot.WTIとSpot.Goldのマーケット・レベル

ポイント

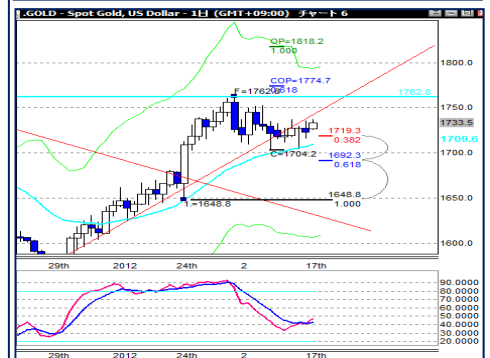
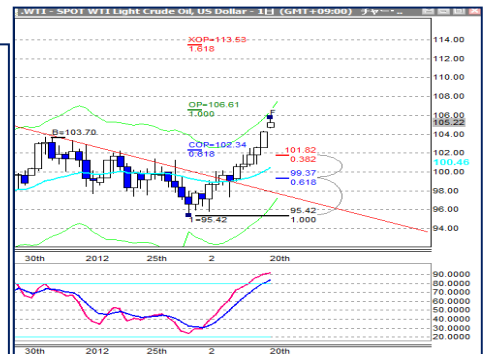
イランは欧州 2 国へ原油輸出の停止を通達し、西側諸国に揺さぶりをかけ、方や、その分の原油を他国(イラン支援国)に売る動きも示している。ホルムズ海峡の封鎖や、イスラエルがイラン核施設へ攻撃する強硬手段に出る可能性も高いのではと言われており、地政学的リスクの買い要因は強い。また、ギリシャ第 2 次支援が合意する可能性や、中国の預金準備率引き下げという、需要拡大へ結び付く動きや、堅調な米国経済指標やドイツ第 2 四半期 GDP の拡大予測など、買いの材料が続いている。

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMA は 100.46 で上昇トレンドが続き、買いの流れが加速し暫くは押し目買いの流れに入っている。イランが英国とフランスの石油会社への原油輸出を停止し、他国への拡大が懸念され、欧米の景気拡大期待に需要の高まりが予想され、買いの材料が多く示されている。

◎Spot.Gold

EMA は 1709.62 で、中国の預金準備率引き下げと言う、フォローの流れや、ギリシャ第 2 次支援の合意期待にも、利食いの売りに買いの流れは弱い。最近のレンジの上値となる、先の高値 1762.8 を超えてくるまでは、ブルな相場になりきれないでいるが、ストキャスティクスは買いに変化している。



Spot.WTI(Light Crude Oil)(.WTI 日足)=25 日指数移動平均線は 100.46、この線を下限に上昇を続けている。DOPup=106.38、DOPdn=96.17。スロー・ストキャスティックは%K=91.81、%D=84.23 で、買いトレンドが継続するか、売りへ変化するのか注視、ベースは買われ過ぎゾーン。上値のポイントは 106.38、106.61、113.53。下値のポイントは、104.24、102.34、101.82。予想レンジは 104.20~106.60

Spot.Gold(.GOLD 日足)=25 日指数移行平均線は、1709.62、この線を下限に横ばい状態が続いている。DOPup=1793.49、DOPdn=1606.68。スロー・ストキャスティックは%K=47.30、%D=43.55 で、売りから買いへ変化、ベースはニュートラルゾーンに近い。上値のポイントは 1762.8、1774.7。下値のポイントは 1719.3、1709.62。予想レンジは 1720~1750。

前日の海外市場の動き

本日は米国市場が休場。週末には、ユーロ圏財務相会合でギリシャ第2次支援の合意の可能性が強まり、中国人民銀行が預金準備率の引き下げを発表し、イラクが英仏企業への原油輸出の停止を発表するなど、取引開始前から相場の変動要因が多く提示されていた。これらの材料を含め、日本の1月貿易赤字は単月で過去最高になることが予想され、オセアニア市場から、JPY+USD 売り、AUD+NZD+CAD 買いの流れが始まり、アジア市場は取引開始からこの流れが加速した。

ユーロ圏財務相会合のビックイベントを控えポジション調整への動きも早く、予想をやや上回る赤字の日本の貿易赤字の発表直後から、USDJPY は売りへ変化、他の主要国通貨も下落しドルの買い戻しが続いたが、ギリシャ第2次支援の合意期待感の強い EUR だけは、USD を含め他の主要国でも買いの流れが継続した。

- ◎S&P 信用アナリスト、日本の格下げは2年以来に行われる可能性があり、格下の可能性は1/3以上→特に大きな反応なし
- ◎ベネゼロス・ギリシャ財務相、第2次支援の承認を得るために必要な全ての条件を満たした→EUR 買いの材料となるが反応は鈍い
- ◎ギリシャ財務省当局者、ギリシャの債務負担軽減策で合意の模様→EUR 買いの材料となるが反応は鈍い
- ◎ショイブレ独財務相、ユーロ圏財務相会合で第2次ギリシャ救済の最終詳細の合意ができることに自信→EUR 買いの材料となるが反応は鈍い

USDJPY

ギリシャ第2次支援の合意期待の安全資産売り+日本貿易赤字の拡大予想に、アジア市場は、先週 NY 市場の終値から窓を開け 79.60 で取引が始まり、中国の利下げによる、AUDJPY+NZDJPY で円売りが加速し 79.89 まで上昇、貿易収支発表後は、実需と投機筋のドル売り・円買いに 74.40 台まで下落、大枠 79.40~60 のレンジで取引が続いた。欧州市場は、他通貨で円の買い戻しが続き、一時 79.36 近くまで値を下げたが、米投資家の買いに 79.80 台まで再上昇し、ユーロ圏財務相会合を控え、米国市場が休場のため積極的な取引を控える動きが強く、大枠 79.40~61 のレンジで取引が続いた。

EURUSD

ユーロ圏財務相会合でギリシャ第2次支援の合意の可能性が高く、アジア市場は、先週 NY 市場の終値から窓を開け、1.3180 で取引が始まり、安全資産のドル売り+EURJPY の買いの流れに 1.3236 まで上昇、EURJPY が売り変化し、大枠 1.3205~20 のレンジで取引が続いた。欧州市場に入り、資本筋の EUR 売りに一時 1.3180 まで下落したが、欧州株の上昇に 1.3230 近くまで値を戻し、ドイツ連銀月報の独景気の楽観的な報道や、ギリシャ第2次支援の同意の可能性を示唆する発言が続き、1.3270 台まで上伸、ユーロ圏財務相会合を控え、米国市場が休場のため積極的な取引も見られず、一時 1.3230 まで値を下げている。

AUDUSD

中国人民銀行が預金準備率の引き下げを週末に発表したことで、先週 NY 市場の終値から窓を開け 1.0770 で取引が始まり、AUDJPY の買いも加わり 1.0815 まで上昇、利食いの売りに 1.0765 近くまで値を下げた。欧州市場は、EURUSD の売りに伴い一時 1.0745 台まで値を下げたが、堅調な欧州株と EURUSD の反発に 1.0795 近くまで再上昇、ユーロ圏財務相会合を控え、米国市場が休場のため積極的な取引を控える動きが強く、ポジション調整の売りに 1.0740 割れまで値を下げている。

金・原油価格

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場は、イラクの英仏企業へ原油輸出の停止報道やドル安の流れに、先週末の NY 市場から大きく値を上げ 104.73 で取引始まり、直後 105.53 まで急伸、大枠 105.05~40 のレンジで取引が続いた。欧州市場は、一時 104.78 まで値を下げたが、ギリシャ第2次支援で合意の可能性を示唆する発言が続き、ドル安の流れに一時 105.77 まで上昇したが、米国市場が休場の北米市場に入ると、ユーロ圏財務相会合の結果を待つ動きに、大枠 105.15~55 のレンジで取引が続いた。

◎Spot.Gold

アジア市場は、中国人民銀行が預金準備率の引き下げやドル安の流れに、先週末の NY 市場から大きく値を上げ 1726.5 で取引が始まり、1737.0 まえ続伸し、大枠 1734~36 のレンジで取引が続いた。欧州市場は、利食いの売りに一時 1728.3 まで値を下げたが、ギリシャ第2次支援の合意の可能性を示唆する発言や EURUSD の上昇に、1735.8 まで値を戻し、米国市場が休場の北米市場に入ると、ユーロ圏財務相会合の結果を待つ動きに、大枠 1731.5~1735.8 のレンジで取引が続いた。

前日の主な発言・出来事

	欧州関連
	習近平中国国家副主席(アイルランド訪問) = ◎中国はEUの救済基金を通じて欧州債務危機解決への関与を拡大することを検討
	ドイツ連銀月報 = ◎ドイツ景気見通しは目に見えて改善した ◎ドイツ経済は第2四半期に強くなる可能性がある ◎第4四半期のマイナス成長は予想ほど悪化しなかった
	ハンバリー経済相高官 = ◎IMF・EUとの正式な融資交渉を開始できると期待、第1四半期末あるいは4月にもIMFと合意見通し
	モンティ・イタリア首相 = ◎景気後退が長期化したり、景気回復しない場合でも、緊縮予算を編成する必要はない ◎ギリシャ債務危機が封じ込められたように見え、EU7~8カ国に書簡を送り、成長刺激策について提案した

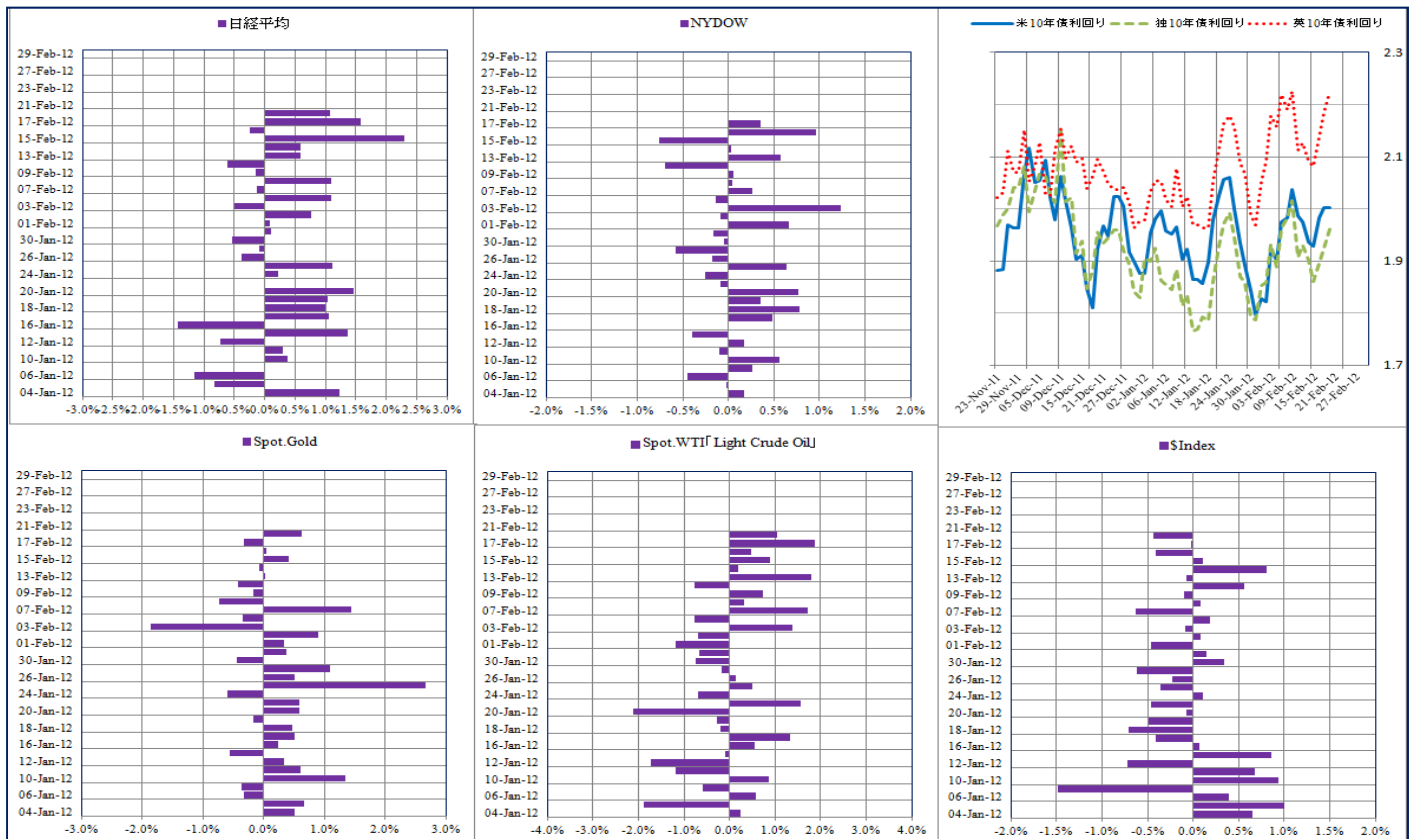
	ギリシャ関連
	ベニゼロス・ギリシャ財務相 = ◎トロイカと民間債権者との債務交換の条件で協議
	デヤールヘル・オランダ財務相 = ◎ギリシャ支援は、全ての条件を満たすまで実施を拒否することができる
	ショイブレ独財務相 = ◎ユーロ圏財務相会合で第2次ギリシャ救済の最終詳細の合意ができることに自信 ◎ギリシャへの新たな救済プログラムにかんして決定をまとめるつもり ◎高官に債券保有者が参加するか、2年に及ぶ緊縮財政の継続にギリシャが耐えることができるか、欧州北部諸国の議会承認を無事得られるかがカギを握る
	ユンケル議長 = ◎ユーロ圏財務相は第2次ギリシャ支援の規模を協議 ◎欧州にギリシャがユーロ圏を離脱してほしい国はない
	ギリシャ財務省当局者 = ◎ギリシャの債務負担軽減策で合意の模様
	ギリシャ財務省当局者 = ◎19日の協議で、ギリシャ第2次金融支援で第1次救済融資の金利引き下げ、各国中銀が投資ポートフォリオに持つギリシャ国債の債務圧縮に活用することで合意にたつた
	ECB 法務サービス担当ディレクター = ◎ECBが購入したギリシャ債で償還時に発生する利益をユーロ圏各国の中銀が、EFSFなどを通じてギリシャの債務圧縮のために使うとの選択肢がある
	ベニゼロス・ギリシャ財務相 = ◎第2次支援の承認を得るために必要な全ての条件を満たした ◎ギリシャ第2次支援の合意はより楽観的になっている
	匿名高官(FT紙) = ◎ユーロ圏財務相会合は合意に達する見通し ◎昨年10月のEU首脳会議の合意1300億ユーロより60億ユーロ多い1360億ユーロの支援をEUとIMFから求められことになり、ユーロ圏財務相は、各国中銀に支援を求める

JPY	S&P信用アナリスト = ◎日本の格下げは2年以来に行われる可能性がある ◎格下の可能性は1/3以上 ◎政治混乱が格下げを招く可能性がある
JPY	S&P = ◎日本の外貨・自国通貨建ての長期国債格付けを「AA-」に、短期国債格付けも「A-1+」据え置くと発表。財政赤字や高債務残高、出口の見えないデフレが財政に悪影響、高水準の対外純資産残高はプラスに作用。見通しはネガティブ。
CHF	スイス中銀 = ◎韓国国債を初めて買い入れると通知

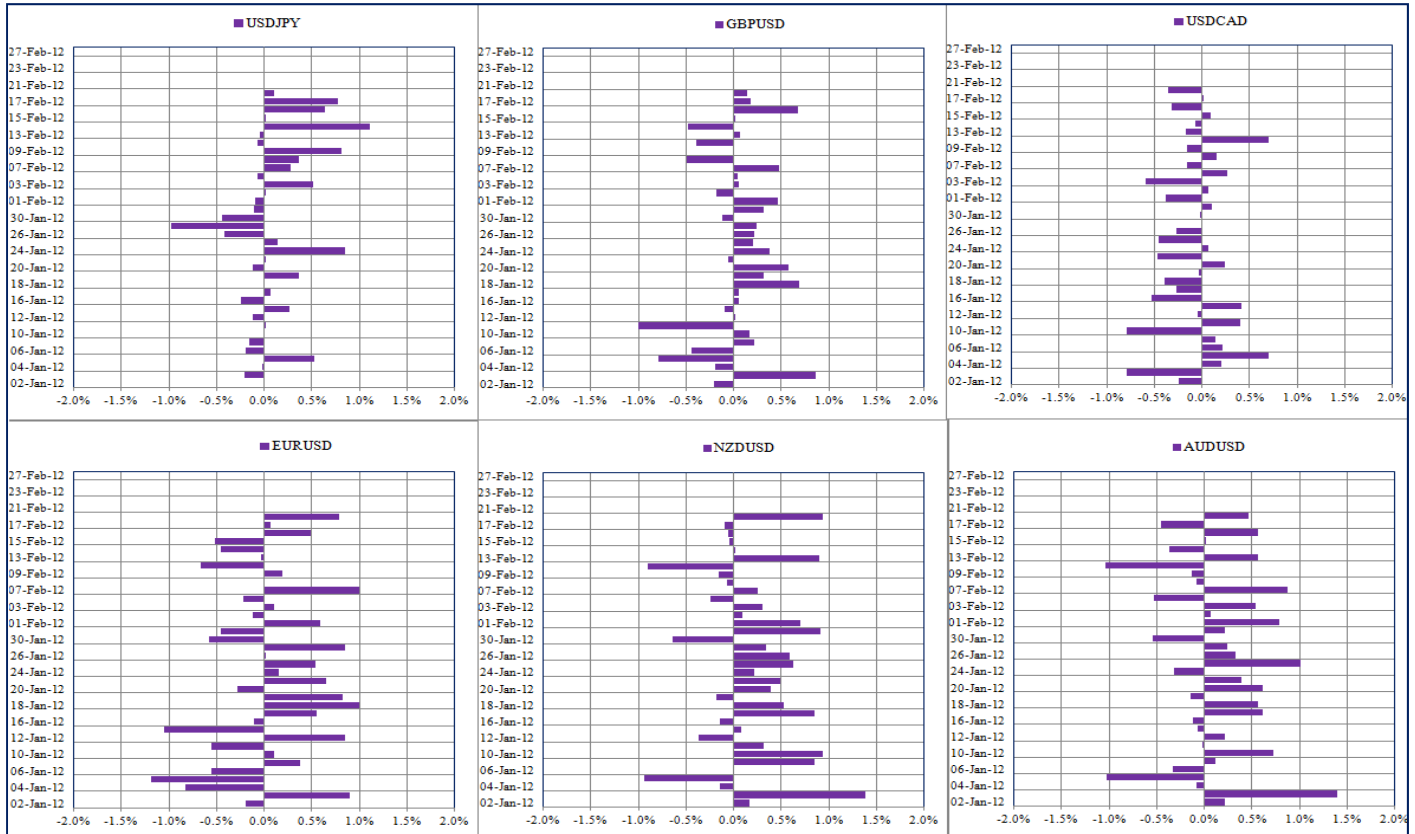
前日の経済指標と結果

6:45	NZD 第4四半期 生産者物価:投入高=前期比 0.5%(予想 0.4% 前回 0.6%)、生産高=前期比 0.1%(予想 0.5% 前回 0.2%)
8:50	JPY 1月 通関ベース貿易収支=-1.475兆円(予想-1.4563兆円 前回-2056億円←-2051億円)、季調済=-6128億円(予想-8478億円 前回-5687億円←-5676億円)
9:01	GBP 2月 ライトムーブ住宅価格=前月比 4.1%(予想 前回-0.8%)、前年比 1.4%(予想 前回 0.4%)
14:00	JPY 12月 景気一致CI指数・確定=93.6(予想 前回 93.2)、一致指数・確定=94.0(予想 前回 94.3)

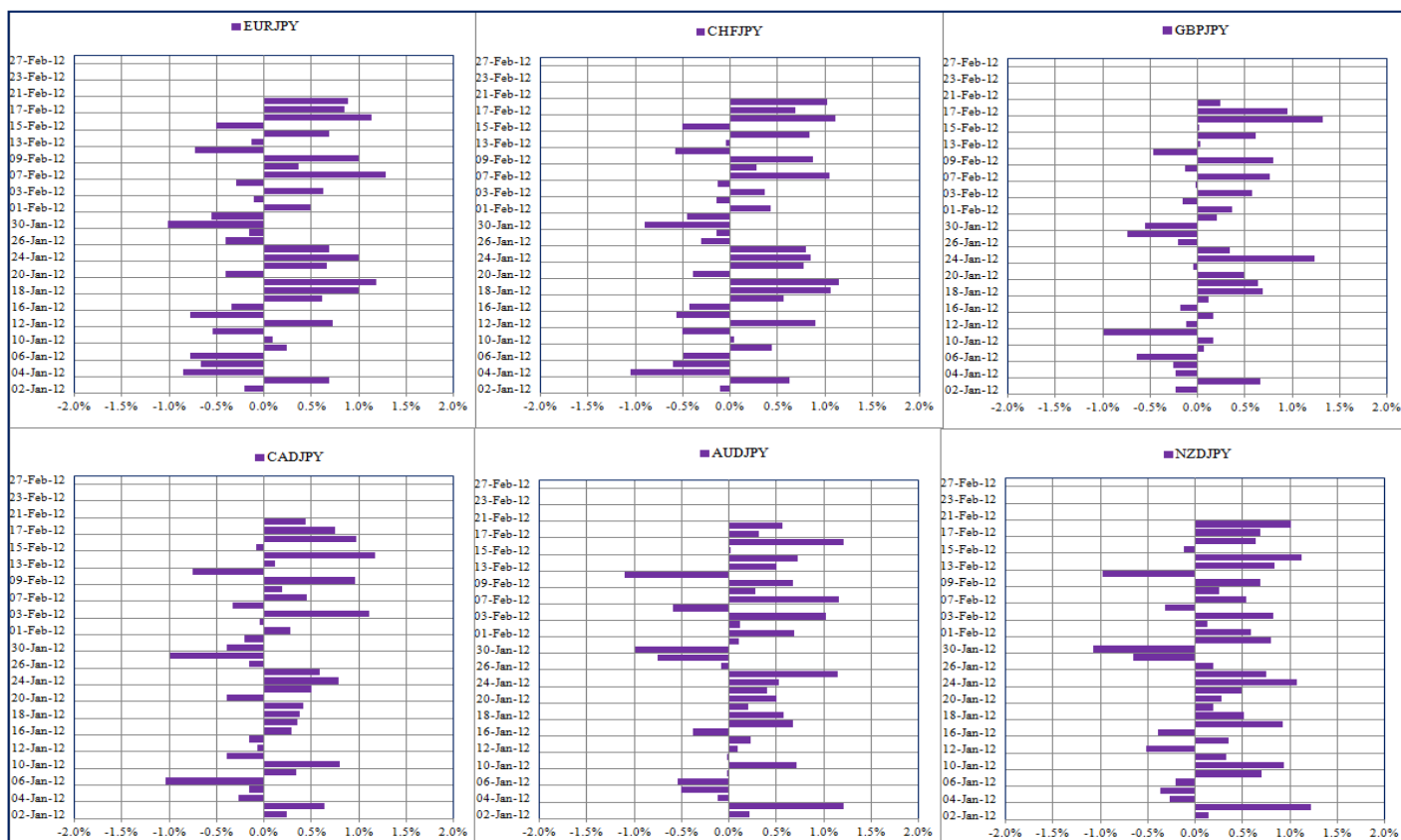
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りのDaily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引(FX)及びCFDには、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011